

1 目指す姿

(1) 目指す学校像	○三重県の視覚障がい教育の中核的役割を果たすとともに、児童・生徒一人ひとりが尊重され、夢や目標に向けチャレンジできる学校
(2)	育みたい児童・生徒像
	○夢や目標（日常の課題から、スポーツや文化的な活動、国家試験合格や優れた施術者になること等）を自ら定め、挑戦する児童・生徒 ○自他の命を大切にする、人権感覚にあふれた児童・生徒 ○仲間とともに積極的に活動し、互いを尊重し理解し合う関係を築いている児童・生徒
(2)	ありたい教職員像
	○視覚障がい教育に関する専門性の維持・向上に積極的に取り組み、関係機関と連携をはかりながら視覚障がい児・者の学習支援やセンター的機能の充実を図ろうとする教職員 ○特別支援学校に勤務する者として、幼児・児童・生徒個々の障がいに基づいた誠実な支援を行い、幼児・児童・生徒及び保護者からの信頼に応え、人権を重んじた真摯な態度で教育を行う教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	＜児童・生徒＞将来の自立と社会参画に向けて、学齢児においては「生き抜いていく力」につながる知識やスキルの習得を、成人生徒においては国家試験に合格し、希望する進路が実現することを望んでいる。 ＜保護者＞学力や基礎生活力の向上に向けて専門的な視覚障がい教育が受けられることや、将来を見通した情報提供並びに個々に応じた進路指導が期待されている。また、視覚障がいの特性をふまえた危機管理体制の充実が望まれている。 ＜地域＞視覚障がいのある乳幼児の保護者への支援や他校に在籍する視覚障がい児童・生徒への学習支援、中途視覚障がい者への生活支援の充実が望まれている。	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待 ＜家庭＞点字等の専門的な指導を充実するとともに、教育内容や進路に関する担任等との相談の機会を増やしてほしい。 ＜地域社会＞盲学校の教育内容や視覚障がいの理解につながるような情報を発信してほしい。 ＜学校・幼稚園・保育園等＞視覚障がい児童・生徒に対する指導について、専門的な見地から助言してほしい。	連携する相手への要望・期待 ＜家庭＞本校の教育方針に対して理解と協力を進め、共通した方向性で家庭教育を行ってほしい。 ＜地域社会＞本校の取り組みを理解し、各種行事に参加したり、啓発活動を行う機会を提供したりしてほしい。 ＜学校・幼稚園・保育園＞早期からの適切な支援を行うべく、早めに対応できる体制を整えてほしい。
(3) 前年度の学校関係者評価等	・視覚障がい教育に対する専門性の維持向上に向けて、引き続き研修を進めていきたい。 ・他校との交流や共同学習をさらに推進するとともに、センター的機能について、支援を行った小中学校等に調査を行い、成果と課題について明らかにする必要がある。 ・時間外勤務をする職員数を減らすために、会議の短縮化や業務の割り振りの工夫が必要である。 ・盲学校と聾学校の校舎等の移転（寄宿舍を含む）を見据え、盲学校児童生徒と聾学校児童生徒の交流をもつ機会について検討を始めてはどうか。	

(4) 現状と 課題	教育 活動	・児童・生徒数が少ないことから、個々の児童・生徒の状態に応じた細やかな学習計画（理療科においては、課外授業も含む）を設定して取り組める強みがある反面、社会性向上につながる集団での教育活動には弱みがある。 ・学校内における高い専門性を持った指導を担保しつつ、センター的機能として他の学校等への支援に経験豊富な教諭を派遣していることから、全ての教員に対して、知識や専門性向上のための研修体制を一層充実させ、視覚障がい領域の免許取得を推進することが急務である。 ・理療科では、資格のない生徒の就職が困難な状況にあることから、国家試験に合格するための専門教育と指導力の向上を進めるとともに、就職先の確保に向けて、一層の啓発活動と進路開拓を行う必要がある。 ・地域や保護者からの要望を受け、幼児等に対する支援体制を構築し幼稚部設置に向けた取組を推進していく必要がある。
	学校 運営等	・広く県民に対して、視覚障がい児・者の子育て、教育、生活等での相談先として知られてきている反面、全県一区の学校であり支援が広域におよぶため、近隣地域等との連携が深まりにくい状況がある。 ・視覚障がい者の特性に配慮した巨大地震や津波などに対する防災・減災の取り組みを一層進めていく必要がある。 ・本校の支援活動や支援教育の取組等を積極的に外部に発信し、視覚障がい教育について啓発していく必要がある。 ・時間外労働が一部の教員に偏っていることから、業務分担の平準化を図るとともに、全体的な総勤務時間の縮減を図る必要がある。 ・人権教育を充実させるために、教職員の人権感覚を涵養する取組を行う必要がある。

3 中長期的な重点目標

教育 活動	・児童生徒の健康管理意識、体力の向上、基礎学力の向上に取り組み、仲間とともに、自ら進んで課題に挑戦する態度を養う。理療科においては、国家試験の合格と優れた人材の育成をめざすとともに、中途視覚障がい者の自立と学び直しのための教育課程について具体的な検討を進めていく。 ・将来の社会参画と自立に向けて、幼・小・中・高・専と継続したグランドデザインを構築しキャリア教育の実践を積み重ねる。 ・教職員の視覚障がい教育に対する専門性の維持、向上を図るため、3年間で一定の視覚障がい教育の専門性を身につけられるような研修体制づくりをめざす。 ・早期教育・幼児教育を充実させるための幼稚部を設置する。
学校 運営等	・県内全域に対するセンター的機能の充実を図るとともに、学校所在地域との連携を強めていく。 ・児童生徒の生命の安全を第一に考え、より幅広い視点から危機管理体制の見直しを図る。 ・県内のすべての視覚障がい児・者が、本校の存在や教育内容について知ることのできる状態を目指して、教育や福祉等の行政及び医療機関、社会に向けた啓発を一層強化していく。 ・校舎等の移転に向けて、聾学校と連携協力のもと、準備を進めていく。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

※：定期的に進捗を管理する取組 ◎：最重点取組

項目	取り組み内容・指標・結果	備考
学習・生活指導の充実	(1) 一人ひとりの学習意欲や基礎学力の向上（小・中学部） 【活動指標】 児童生徒の情報交換会を持ち必要な情報交換が得られたかどうか。 【成果指標】 個別の指導計画の年間目標 1 項目以上を達成する。 【活動・成果】	
	(2) 仲間とのつながり、ソーシャルスキルの向上（小・中学部） 【活動指標】 仲間と協力して取組んだり、日常生活経験を豊かにしたりするための活動を提案し、学部単位及び小・中学部合同の活動や校外学習を実施する。 【成果指標】 個別の指導計画の年間目標 1 項目以上を達成する。 【活動・成果】	
	(3) 自主的に学習できる生徒の育成（普通科） 【活動指標】 学部会で月 1 回生徒の情報交換を行う。年間 11 回実施。 【成果指標】 各生徒の個別の指導計画年間目標 1 項目以上達成。 【活動・成果】	
	(4) 思考力・判断力・コミュニケーション力・情報活用能力等の習得のための支援（普通科） 【活動指標】 各学期初めと学期末の年 6 回自立活動検討会を実施。 【成果指標】 全生徒が将来の進路や日常生活の目標を明確にできる。 【活動・成果】	
	(5) 適切な進路への指導・支援、人権を尊重する理療・保健理療施術者の育成（理療科） 【活動指標】 ①定期試験（年 5 回）・実力テスト（年 1 回）を実施する。 ②各学年に応じた進路情報の提供と、進路先の見学・実習をおこなう。 ③キャリア教育の充実 【成果指標】 ①国家試験合格を見込める学力の育成。 ②進路懇談・見学・実習により、卒業後の進路先を具体的にさせる。 ③施術者に必要な技術と倫理を身につけさせる。 【活動・成果】	
	(6) 舎生一人ひとりに応じた支援・指導の充実（寄宿舍） 【活動指標】 ①保護者、学級担任と連携を密にする。 ②職員間及び宿直舎監との毎日の引き継ぎを確実にし、情報共有を図る。	

③職員間の指導の統一を図り、全職員で舎生の指導・支援に取り組む。 【成果指標】 ①保護者、学級担任と学期毎に懇談を実施し情報共有する。 ②宿直舎監との情報共有の時間を1日3回とる。 ③個別の指導計画における個々の目標を1つ以上達成する。 【活動・成果】	
(7) 舎生がお互いを大切にする力・よりよい生活を築く力を育む（寄宿舍） 【活動指標】 ①舎生主体の舎生会活動に取り組む。 ②月初めに生活目標を伝え、意識づける。 ③統合寄宿舍での生活を見据えて、新しい生活がイメージできるような機会を作る。 【成果指標】 ①行事等の感想・反省を聞く。楽しかったという割合80%以上。 ②月末に生活目標の感想・反省を聞く。達成度80%以上。 ③舎生が統合寄宿舍での生活をイメージできるような機会を2回以上作る。 【活動・成果】	
(8) 個別の指導計画の作成と効果的な活用を進める。（教務部） 【活動指標】 ①学習指導要領に基づいた観点別目標を設定する。 ②キャリア教育と連動した活用を進める。 【成果指標】 指導目標にキャリア教育学習プログラムに関連した項目を入れる。（児童生徒一人につき1つ以上） 【活動・成果】	◎
(9) 読書および図書館利用、自学能力を育成する。（総務部） 【活動指標】 児童生徒が読書しやすい環境、自学自習しやすい環境を整備して、図書館利用の促進に努める。 【成果指標】 児童生徒の貸出利用者率80%以上を目標とする。 【活動・成果】	
(10) 早期支援・早期教育の充実、学齢期の子に対する教育相談の充実（支援部） 【活動指標】 ①早期支援・早期教育 「ひだまり教室」、「親子のつどい」、「でアイふれアイ相談会」の実施。 ②教育相談 個々のニーズを把握し、それに応じた必要な回数の実施。 【成果指標】 ①②ともに、年度末にアンケートを行い、「よかった」の項目について、保護者の満足度「80%以上」。②については、在籍校の満足度「80%以上」。 【活動・成果】	

	(11) 健康診断・身体測定を通して、自分の体を知り、日常生活において基本的生活習慣を身に付け、健康的な食生活を送り、健康の維持、体力の向上を図ることのできる児童生徒の育成を目指す。（生活保健部） 【活動指標】 ①児童生徒自身が健康状態を把握し、健康の保持増進の意識を高めるため、各種健康診断を実施。 ②自分の体と健康に関する知識を持ち、健康的な生活を養うため、身体測定を月1回実施。 【成果指標】 ①全ての検診において受診100%を目標とする。 ②月1回の身体測定参加100%を目標とする。 【活動・成果】	
	(1) 安全・安心な寄宿舎生活を目指す。（寄宿舎） 【活動指標】 年3回（地震、火災、地震・火災）を想定した避難訓練と、不審者対応訓練の研修を行う。 【成果指標】 学期に1回の訓練と年1回の研修を実施する。 【活動・成果】	
安全・安心な学校生活	(2) 人権教育を重んじた実践をサポートする。（教務部） 【活動指標】 いじめ防止や命を大切にす視点を含めた道徳教育の全体計画の実施状況や各教科の指導内容を定期的に把握する。 【成果指標】 各学部教務担当者および道徳教育担当者が各学期の前後に実施状況を確認し、充実を目指す。 【活動・成果】	※
	(3) 自他の命を大切にし、いじめを許さない学校づくりを推進する。（全、生活保健部） 【活動指標】 保護者との懇談を年4回、いじめアンケートとそのフィードバックを児童および保護者へ年3回実施。 【成果指標】 いじめの疑いに関する情報を把握した時は迅速に適切な対応をとり、未然防止・解消および再発防止に努める。いじめゼロ。 【活動・成果】	
	(4) 学校給食における事故等防止への校内体制の強化。（生活保健部） 【活動指標】 ①食物アレルギーや疾病に起因する食事制限への除去または代替食の対応、および異物混入を未然に防ぐために複数での対策を行う。 ②非常事態時の対応マニュアルの共有。 【成果指標】 危険異物混入なし 100% 【活動・成果】	

	(5) 自らの命を守るため、防災・減災に対する意識を高く持ち、視覚障がい者の特性を考慮した安全行動がとれるように避難訓練等を通して、危機管理体制の充実を目指す。(生活保健部) 【活動指標】 ①年2回避難訓練を実施。(通常避難訓練・抜き打ち避難訓練) ②年2回防災給食や個人備蓄食品試食等の実施。 【成果指標】 ①避難訓練チェックシートの提出率100% ②実施率100% 【活動・成果】	
障 が い の 理 解 と 啓 発	(1) 視覚障がい・視覚障がい教育関連図書を積極的に収集する。(総務部) 【活動指標】 視覚障害教育を担う機関として、視覚障がい・視覚障がい教育関連図書の収集に努める。 【成果指標】 年間で30冊以上、視覚障がい・視覚障がい教育関連図書を収集する。 【活動・成果】	
	(2) 視覚障がい児・者理解に向けた啓発・支援活動の推進(支援部) 【活動指標】 県内全市町の福祉行政機関及び関係諸機関への訪問を行い、視覚障がい理解のための啓発活動を推進するとともに、職域・職場開拓につなげる。また、卒業生の支援については、時期を設けず、必要時迅速な対応を行う。 【成果指標】 県内29市町の関係機関を春と秋の年2回ずつ訪問する。関係医療機関については、年1回訪問する。また、卒業生支援については、該当卒業生や進路先へのアンケートを行い、対応についての満足度「80%以上」を目標にする。 【活動・成果】	
	(3) 盲学校の日常の教育活動の様子を校外に知らせ、障がいの理解に努める。(管) 【活動指標】 ①日常の様子をホームページ等で発信する。 ②行事等についてマスコミに告知する。 【成果指標】 ①月2回以上ホームページを更新するとともに、名刺や配布物等にQRコードをのせるなどして、アクセスの向上を図る。 ②新聞等への掲載回数学期に1回以上。 【活動・成果】	

(2) 学校運営

【活動指標について】 取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

※：定期的に進捗を管理する取組

【成果指標について】 取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

◎：最重点取組

項目	取組み内容・指標・結果	備考
職場環境の向上	(1) 総勤務時間を縮減する。(管) 【活動指標】 ①時間外労働時間を正確に入力するよう啓発する。 ②学校閉校日を夏季休業中に4日設定する以外に年休等の取得を呼びかける。 ③月1回のノー会議ディ、定時退校日を設定する。 【成果指標】 ①一人あたりの月平均時間外労働：15時間以下。 ②1ヶ月の時間外労働時間45時間を超え延べ人数0。 ③1年間の時間外労働総時間360時間を超え人数0。 ④年休取得1人8日以上、夏季休暇完全取得100%。 ⑤設定した日の定時に退校できた職員の割合90%以上 【活動・成果】	
	(2) 会議資料の事前提出の促進を図るなど各会議の効率化を目指す。また職員や校務部間の報告、連絡、記録を密にして情報共有を促進し、円滑な学校運営と総勤務時間の削減に努める。(総務部) 【活動指標】 現状を改善する手立てを2つ以上とりあげ、会議が定時終了できるようにする。 【成果指標】 勤務時間内の会議終了を90%以上とする。 【活動・成果】	
	(3) 校内での情報共有を定期的に行い、スムーズな業務ができる環境づくりに努める。(管) 【活動指標】 ①情報共有や事前打ち合わせを密にして、情報共有の遅れがないように努め、学期ごとに状況の確認をする。 ②主事会の実施、オフサイトミーティングの実施 【成果指標】 教職員満足度アンケート「支援の依頼しやすい職場」項目で、全員「やや満足」以上。 【活動・成果】	◎
職員の資質	(1) 支援機器やICT機器等の使用方法をサポートする。(総務部 情報) 【活動指標】 個別や少人数のICT機器の指導・サポート、全体へのマニュアル配布等を行う。 【成果指標】 年間10件以上。 【活動・成果】	

	(2) 教員の専門性を向上、継承・発展するための研修を行う。(研修部) 【活動指標】 ①各学部で校内授業公開週間を設け、全校で授業研究を推進する体制づくりをすすめる。 ②「三重県立盲学校専門性チェックリスト」を活用して、教員の自己研鑽を促進するとともに、教員のニーズを捉えた研修を行う。 新転入者のための研修：4回 学部研修・寄宿舍研修：10回 全体研修：5回 県外研修報告：2回 公開講演会：1回 【成果指標】 ①「授業力が向上したと思われる。向上しそうだ。」のアンケート回答が80%以上。 ②各研修の満足度80%以上 【活動・成果】	
改善課題		

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	
---------------------	--

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	
学校運営についての改善策	